

# 『ふぞろいな再現答案3』ダウンロード特典 ～合格年度 1次試験後11週間の過ごし方(PDF版)～

合格者たちは、1次試験後の11週間をどう過ごしたのか。「受験回数」別に紹介します。

## 初年度 受験生①

### うみの

ストレート生にとって何より重要なのは、「自分の立ち位置を確認し、試験に求められているものを見極め、自分に足りないものを把握する」現状把握力です。予備校のメソッドや解答テクニックに頼りすぎることは、時にその本質を忘れさせてしまうリスクをはらんでいます。時間がないからこそ、常に冷静に自分の弱点を見極め、その克服にリソースを集中させるのが良いと思います。

#### 1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：特になし			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)		仕事が繁忙期に入り、全く何もできず。		
学習(予備校/通信)		特になし		
学習(その他)		特になし		
模試		特になし		
効果/反省		反省点としては、隙間時間を活用した対策など、忙しい状況下でもできることを計画立てておけば良かったと思う。		

#### 9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：合格レベルに達するうえで自身に何が足りないのかを見極める			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)		通信予備校のテキストと『2次試験合格者の頭の中にあつた全知識』をもとに、事例ごとの知識をノートにまとめる。過去問に着手。	4事例	平日：1～2時間 休日：7～8時間
学習(予備校/通信)		通学していた予備校の授業で演習問題を解くものの、模範解答にあまり納得がいかず、自分には合わないと感じる。情報収集と検討の結果、自分なりに最も納得のできた予備校の通信に申込み、演習をこなす。	4事例	
学習(その他)		「ふぞろい7」のセミナーに参加。そこで知り合ったふぞ7メンバーから、勉強会を紹介してもらい、参加し始める。	2事例	
模試		通学していた予備校、通信の予備校、他の予備校の計3校で受験。模試はあくまでも演習の延長戦だと解釈していたので、単に本番のシミュレーションとして受けた。	3回 予備校によって異なるが、概ね上位 25～30%以内	6時間×3
効果/反省		自分なりの解答フレームのベースとなる予備校のメソッドを身につけられた。勉強会を通して自身に足りないものは「知識や切り口」だと気づくことができた。模試をなるべく多く受けることで、解答プロセスを検証する機会をほぼ毎週持てた。		

#### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：知識の体系化と多面的な切り口を身につけ、解答に使えるようにする			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)		過去問と事例Ⅳの計算問題集に教材を絞り込む。過去問を解き、自身の解答とふぞろい流採点を突き合わせ、足りない切り口やキーワードをインプットする。数を解くことより、振り返りをしっかり行うことを重視した。	10事例 特に事例ⅢとⅣを強化。	平日：1～2時間 休日：7～8時間
学習(予備校/通信)		過去問の自己採点の際は、予備校の模範解答も参考にし、ロジカルに納得できる内容のものだけを取捨選択し、写経した。		
学習(その他)		勉強会は予定が合わなくて参加できず。		
模試		9月に受けた模試の結果を分析。こちらも、模範解答の内容とそこに至る解答プロセスに納得ができるものだけを参考にした。		
効果/反省		過去問に集中して対策を行ったことで、大まかな出題パターンと何が求められているのかが少しずつわかってきた。多面性を意識するようになり、少しずつ「ふぞろい」の解答に近づいてきた。		

#### 学習以外の生活

仕事と勉強の両立で手一杯。趣味はすっぱり止めた。月に2回ほどは、友達と会ったり飲み会に参加して息抜き。何をしても、「2次試験で求められていることは何なのか?」「今の自分に足りないものは何か?」を考え続けていた。

#### 仕事と勉強の両立

9月～10月も繁忙期だったが、平日でも最低1時間は机に向かうように心がけた。仕事の隙間時間に見直しできるような「気づきノート」を作成し、何度も読み返すようにしていた。移動時間や休憩時には、過去問や模試の復習ノートを少しでも読むようにしていた。

# 初年度 受験生②

## くもん

結果的に、学習範囲を絞って繰り返すことが合格に導いてくれたと思っています。初学者は特に、あまり時間がないと思いますので、範囲を絞って、対策されると良いと思います。

1次試験終了！ あと11週間！				
課題：まずは過去問を繰り返し、試験パターンを徹底的に身体で覚える				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	学習(自宅)	市販の2次試験の対策本を先輩にもらって、読み始めた。		平日移動時間中心に平均 1～2時間
	学習(予備校/通信)	特になし		
	学習(その他)	特になし		
	模試	特になし		
	効果/反省	手を広げず1冊学習に絞ることとしたのが、結果的に良かったと思う。		
	9月突入！ あと7週間！			
課題：ひたすら過去問を繰り返し、試験パターンを徹底的に身体で覚える				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
9月 (Week 4-7)	学習(自宅)	市販の2次試験の対策本を1～2回まわした。		平日移動時間中心に平均 1～2時間
	学習(予備校/通信)	特になし		
	学習(その他)	特になし		
	模試	特になし		
	効果/反省	手を広げず1冊学習に絞ることとしたのが、結果的に良かったと思う。		
	いよいよ最終決戦！ あと4週間！			
課題：これでもかと過去問を繰り返し、試験パターンを徹底的に身体で覚える				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
10月 (Week 8-11)	学習(自宅)	市販の2次試験の対策本を1～2回まわした。		平日移動時間中心に平均 1～2時間
	学習(予備校/通信)	特になし		
	学習(その他)	特になし		
	模試	特になし		
	効果/反省	手を広げず1冊学習に絞ることとしたのが、結果的に良かったと思う。		

### 学習以外の生活

仕事が繁忙期であったため、学習の時間が確保しにくく、ほぼ仕事中心の生活だった。

### 仕事と勉強の両立

仕事中心に生活をしていました。空いた時間で、市販の2次試験の対策本を読むようにしていた。

# 2年目 受験生①

## ヨッシー

2次試験は1次試験とは違って記述式ということで、アウトプットに意識が向きがちですが、実はインプットも重要です。個人的には、インプットとアウトプットのバランスをうまくとることができたのが、2年目の勝因ではないかと思っています。また、思考力を鍛えるために、模範解答等はあまりあてせず、常に自分の頭で考える癖をつけるようにしていました。

1次試験終了！ あと11週間！				
課題：1次試験保険受験（結果：合格）の勢いを持ち込み、2次試験対策に弾みをつける				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	学習(自宅)	「2次試験合格者の頭の中にあつた全知識」通読 日経社説要約（毎日） 事例IV対策（過去問および「企業診断」掲載の事例）	7事例	スキマ時間 1日30分 80分×7事例
	学習(予備校/通信)	予備校の講座説明会（体験講義付） 予備校のオンライン講座（単発）		2時間30分 2時間
	学習(その他)	ふぞろいセミナー参加 受験生支援ブログの2次試験対策セミナー参加		1時間45分 1時間30分
	模試	予備校模試（通信）	上位10%	80分×4事例
	効果/反省	「2次試験合格者の頭の中にあつた全知識」は1年目はピンと来なかったが、過去問の出題傾向について理解が進んだ2年目に改めて読んでみると、必要な知識が整理されて効果的だった。		
	9月突入！ あと7週間！			
課題：自分と考え方が近い予備校の模試を受験し、最後の仕上げ（できれば結果を出したい）				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
9月 (Week 4-7)	学習(自宅)	「中小企業白書」「ふぞろいな合格答案エピソード7」を読む 過去問研究		スキマ時間
	学習(予備校/通信)	予備校の模試解説講義（実際の答案をサンプリングし、公開添削）		
	学習(その他)	ふぞろいセミナー参加		3時間15分
	模試	予備校模試（会場）	上位50%	80分×4事例
	効果/反省	予備校の模試解説講義は、生答案に触れることができることによる気付き、モチベーションアップの面で効果的だった。		
	いよいよ最終決戦！ あと4週間！			
課題：初見問題に安定して対応できるコンディション作り				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
10月 (Week 8-11)	学習(自宅)	事例I～IIIについては、当初の予定とは異なり、この時期になっても初見の過去問が残ってしまっていたため、初見問題対策として利用した。	16事例	80分×16事例
	学習(予備校/通信)	特になし		
	学習(その他)	特になし		
	模試	特になし		
	効果/反省	直前期に初見の過去問を解いたが、出題年度が古く、傾向が最近とはかなり異なっていた。サプライズ対策としては効果的だったものの、うまく対応できず不安感が増してしまった面もあった。		

### 学習以外の生活

特段ストイックになることもなく、いつも通りに過ごした。

### 仕事と勉強の両立

9月末～10月上旬が中間決算で繁忙期になることは確実なので、9月中に一定のメドはつけておきたかったが、進捗がやや遅れ気味となってしまった。

# 2年目 受験生②

## 芹生

ラスト11週はいろいろなことを試さずに、いままでやってきたことを定着させていく手法としました。2年目だったため、1年間の学習の総まとめを意識しました。この時期には基本的にプロセスの改善は行わず、できるだけシンプル化を演習の度にしていきました。また、演習問題や模試など実戦に近い形でどんどん取り組み、知識の補充とプロセスの定着を図りました。

### 1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：モチベーションの維持			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)	予備校の演習問題の復習が中心。財務会計は予備校の2次試験計算問題集を解いた。過去問は、勉強会で行わない年の問題を、設問ごとに分析し、模範解答と比較するノートを作成した。	毎週演習2~3事例 毎日事例Ⅳを2~3問	平日：1~2時間 休日：3~5時間	
学習(予備校/通信)	予備校(通学)。2次直前講義を受講。	毎週演習問題2事例	6時間×2	
学習(その他)	ふぞろいのセミナー出席。勉強会の幹事の方へメールし、参加希望を伝えた。	2週間に1回、2事例	6時間×2	
模試	特になし			
効果/反省	ふぞろいのセミナーに出席したことで、モチベーションが上がり、効果は絶大だった。さらに勉強会への参加もふぞろいのセミナーがきっかけだった。			

### 9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：知識の補充			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)	毎週、予備校に通っていたので、前週に実施した演習問題の復習が中心だった。知識の補充をした。解答プロセスは固まっていたため、大幅な変更はしなかった。財務会計は、計算問題を中心に行った。	毎週演習2~3事例 毎日事例Ⅳを2~3問	平日：1~2時間 休日：3~5時間	
学習(予備校/通信)	予備校(通学)。本試験と同じ時間で演習問題を実施した。プロセスは固まっていたが、だんだんとキーワードをマークする箇所が減っていった。	毎週演習問題2事例	6時間×2	
学習(その他)	勉強会にて、過去問を40分で骨子まで作成し、そのあとグループで議論した。解答欄への作成まではやらなかった。	2週間に1回、2事例	6時間×2	
模試	通学する予備校の全国模試、他予備校の模試を受験。	4事例×2	11時間×2	
効果/反省	いつもは自分が通う予備校で演習や模試を受けていたが、他予備校の模試は、Awayでの戦い方を演習するために敢えて受験した。いつもとちがった会場の雰囲気や知らない人が多い中でやるのは、よい経験になった。			

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：解答パターンの確認と定着化			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)	予備校の演習問題の復習が中心。過去問も、勉強会で行わない年の問題を、設問ごとに分析し、模範解答と比較するノートを作成した。	毎週演習2~3事例 毎日事例Ⅳを2~3問	平日：1~2時間 休日：3~5時間	
学習(予備校/通信)	予備校の最終集中特訓。予備校の演習問題は、結果に波があり一喜一憂をくりかえしていた。	毎週演習問題2事例	6時間×2	
学習(その他)	勉強会にて、過去問を40分で骨子まで作成し、そのあとグループで議論。その他、新作問題も実施。	2週間に1回、2事例	6時間×2	
模試	模試の結果が返ってきた。解説を読んで復習をする。ただし、他予備校の評価はD評価だったため見直さずしなかった。	通う予備校では上位15%以内		
効果/反省	模試の結果が悪いのは問題が悪いと自分を納得させ、点数が悪いことで安心せずに学習に取り組めた。過去問や模試、演習問題の復習をきっちりやっていたことが、効果があったと思う。			

#### 学習以外の生活

学習中心の生活。夏休みにもどこへもいかず、家族には迷惑をかけたと思う。週に一度のランニングは雨が降らない限り続けた。これが意外と気分転換になった。

#### 仕事と勉強の両立

前年は、1次試験直後にタイ出張というハードなスケジュールだったため、それを反省。合格した年はできるだけ、出張を入れないように調整した。帰宅時間は予測できないため、夜の勉強は余裕を持たせるスケジュールにした。逆に朝は予測できるため、1時間早く起床して朝食までの時間で勉強した。

# 2年目 受験生③

## あすか

2年目生も8月からが本当の勝負！やることはただひとつ、「悔いのない勉強をする」こと。そうすると、何をすれば悔いがないのか？今何を「したい」のか？が見えてくると思います。試験当日は否が応でも不安になるはず。それを吹き飛ばせるだけの自信を身につけられるように勉強を組み立ててみてください。

### 1次試験終了！あと11週間！

課題：勉強を継続的に実施する				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	学習(自宅)	演習ノートを作成。 今まで解いた演習で自分が発想できなかった思考を書き留めた。	計26事例分まとめ。 予備校の今までの演習を中心に。	計38時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)の演習を解く。	6事例	計15.5時間
	学習(その他)	勉強会に毎週出席。 過去問の事例を解いた後にディスカッション。	予備校の勉強会 11事例 (平成13~15年度)	計40時間
	模試	予備校(通信)の模試	成績は中の下ぐらい	5.5時間
	効果/反省	7月より本格的に始めた勉強も継続的に実施できた。これで本試験までの追い込みはしっかりできそう。今まで一切復習しなかった予備校の演習などをまとめて一気に復習し、動もバッチリ戻ってきた。		

### 9月突入！あと7週間！

課題：演習ノートで事例を復習				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
9月 (Week 4-7)	学習(自宅)	演習ノートを作成。 今まで解いた演習で自分が発想できなかった思考を書き留めた。	計18事例分をまとめ。 予備校の演習、模試を中心に。	計24.5時間
	学習(予備校/通信)	予備校の演習を解いた。	6事例	計15.5時間
	学習(その他)	勉強会に毎週出席。 予備校(通信)の事例を解いた後にディスカッション。	予備校勉強会 10事例	計35.5時間
	模試	予備校(通信)模試 予備校(通学)模試	(通信) 上位12% (通学) 上位4%以内。	11時間
	効果/反省	そろそろ過去問の復習に取り掛かる準備をしなければ。もう少し早く過去問に取り掛かっていればよかった。前年は平成20~24年度の過去問と平成25年度の本試験を解いているが、今年は解いている暇がなさそう。予備校の演習・模試では上位をキープ。演習と過去問・本試験は全く別物なので、気を抜かないように！		

### いよいよ最終決戦！あと4週間！

課題：今までやった事例をすべて演習ノート・過去問ノートにまとめる！！				
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間	
10月 (Week 8-11)	学習(自宅)	演習ノート、過去問ノートを作成。 演習ノートは自分が発想できなかった思考を書き留めた。過去問ノートは何が問われているか？とそれに対する1次知識の洗い出し。	計39事例分をまとめ。 過去問・予備校(通学・通信)演習	計42.5時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)のオプションゼミを受講。		計5.5時間
	学習(その他)	勉強会に毎週2回出席(土日)。 過去問の事例を解いた後にディスカッション。 平成20~25年度の設問の要求解釈だけやる。	予備校勉強会 19事例 (平成16~19年度)	計44.5時間
	模試	特になし		
	効果/反省	本試験までに今までやった事例すべてをまとめ終えた。これが自信となった。しかし、平成20~25年度の過去問は見たが、解き直しはしていない。ノートにもまとめていない。直近の過去問がこれでいいのか少し不安。不安になるぐらいなら無理してでもやっておくべきだったか。		

#### 学習以外の生活

仕事をしている時も、日常生活をしている時も、「診断士目線」でいるようにした。店の前を通りがかった時は「この店のコンセプトはこうかな？強みはこれなんだろうな」とぼんやり考えたり、勤め先の会社の強み弱み、診断・助言するとしたらこうだな…と考えてみた。勉強と日常を切り離さないようにしていた。

#### 仕事と勉強の両立

仕事の愚痴を提案に変換。仕事が定時終わりのため、勉強時間確保には困らなかったが、仕事でも診断士の知識を活かせるように考え方を変えていった。仕事のメールを送る時も解答のように因果関係を意識したり、短文で読みやすさ、伝わりやすさを意識した。

# 2年目 受験生④

## けいたん

「直前期は、あくまで今までの勉強の延長」ととらえ、特別に何かをする、ということはありませんでした。演習を解くときは、「毎日が本試験と思え！」をモットーに、眠い時や周囲が騒がしい時も言い訳なしで取り組みました。そのおかげで(?)本試験でもほとんど緊張はしませんでした。

### 1次試験終了! あと11週間!

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題: 大外ししない解答づくり (事例Ⅰ~Ⅲ)			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	過去問の演習。敢えて字数は考慮せず、解答の軸に何を置くかを考えながら取り組んだ。	2事例/週	平日: 1~1.5時間 休日: 4時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)	2事例/週	週1日: 5時間
	学習(その他)	予備校の同級生と、授業後に喫茶店で勉強。過去問から2事例を選び、各自の作った解答を元にディスカッションをした。	2事例/週	週1日: 2~3時間(予習: 3時間)
	模試	特になし	—	—
効果/反省	反省点: 仕事が繁忙期だったのと、夏休みに旅行の予定を入れたため、勉強時間はあまり確保できなかった。無理やり追いつくために徹夜を繰り返して体調を崩し、健康の大切さを痛感。			

### 9月突入! あと7週間!

9月 (Week 4-7)	課題: 事例Ⅳ対策の追い込み			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	・過去問の演習。(伝わりやすい解答の作成にこだわって取り組んだ。) ・それまで後回しにしていた事例Ⅳの追い込み(予備校の2次計算問題集&意思決定会計講義)。財務は苦手だったため、難しい問題には力を入れず、基本的な頻出論点(財務分析、CVPなど)に絞って勉強した。	過去問: 3~4事例/週 財務: 2~3論点/週	平日: 1.5~2時間 休日: 6時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)	2事例/週	5時間×週1回
	学習(その他)	予備校の同級生と、授業後に喫茶店で勉強。毎回、過去問の中から2事例を選び、各自解いてきて答え合わせ&ディスカッションをした。	2事例/週	週1日: 2~3時間(予習: 3~5時間/週)
	模試	予備校模試(会場受験)	上位50%	解答作成: 5.5時間 復習: 3時間
効果/反省	反省点: 苦手を理由にズルズル後回しにしていた事例Ⅳが、いよいよ放っておけない状態になる。問題集2冊で巻き返しを図るも、全然解けず焦る。もう少し早く始めておけばよかった…。 効果: 文章の伝わりやすさを強化できた。(後々、強みになった。)			

### いよいよ最終決戦! あと4週間!

10月 (Week 8-11)	課題: 本試験を平常心で臨めるようにトレーニング			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	過去問を利用して、本試験のシミュレーションを行った。本試験だったらどのように対応するか、ということを頭において取り組むようにした。	3~4事例/週	平日: 2時間 休日: 6時間
	学習(予備校/通信)	なし	—	—
	学習(その他)	予備校の同級生と、メールで質問があったり、役に立ちそうな資料やデータをやりとりした。	—	—
	模試	予備校模試(自宅受験) 作成した解答を用いて、勉強仲間と相互採点をした。	4事例	解答作成: 5.5時間 相互採点: 2時間 ディスカッション: 2時間
効果/反省	効果: 直前期であることをあまり意識せず、淡々と勉強を進めていった。模試の相互採点により、自分の解答の伝わりにくい部分が明確になった。			

#### 学習以外の生活

平日夜の勉強時間を少しでも多く確保するため、夕食は、ファーストフード(うどん→サンドイッチ→牛丼)のローテーションだった。栄養が偏ることは目に見えていたので、会社での昼食は野菜多めのものを食べるなど、食生活に気を遣った。

#### 仕事と勉強の両立

8月までは仕事が繁忙期で勉強の時間を十分にとることができなかったが、9月以降は仕事の負担が減り、自分のペースで勉強を進めることができた。仕事としてやるべきことはやりつつ、なるべく勉強時間を取れるようにスケジュールの調整を行ったので、結果として仕事の効率も上がった(ような気がする)。

# 2年目 受験生⑤

## むらっち

真剣に勉強を継続すれば十分にチャンスはあります。大事なのは方向性を当てていくことです。出題者の意図や他の受験生が書きそうなことなどの研究は必須です。取り組んだ事例数で勝負するわけではありません。とにかく本質を見抜く努力をしてください。

### 1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：勝負勸を戻していく			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	過去問の演習がほとんど。 毎日事例I~IVに触れることを目標にした。また、自分で作成した解答や模範解答の編集に力を入れていた。どのような表現が相手に伝わりやすいのかをずっと考えていたと思う。	21事例 平成16年度~25年度の中からまんべんなく	平日：2~3時間 (会社の夏休みの時は6~8時間) 休日：6~8時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)：事例I~IV	4事例	6時間×2
	学習(その他)	過年度の1事例を厳選して、出題者の意図や解答の方向性をグループディスカッションしていた。	勉強会 1回 1事例	2.5時間
	模試	特になし		
効果/反省	効果：事例数はある程度こなせていたと思う。 反省：会社の夏休み期間もあり、最初は気合いを入れて猛勉強できていたが、1週間程度でバテた。1次試験を突破してくる方の勢いが怖くて、事例数をこなすことで安心感を得ようとしてしまった。そこまで焦る必要はなかったように思う。			

### 9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：1年前と比較して受験生の中での相対順位アップ			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	過去問演習に重点を置きながらも、予備校の演習の復習にも時間を割いていた。Week 1~3でバテてしまったこと、会社の出張もあり勉強量はかなり落とした。試験委員の書籍を読んだりもしていた。	18事例 平成16年度~25年度の中からまんべんなく	平日：2~3時間 休日：4.5~6時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)：事例I~IV	4事例	6時間×3
	学習(その他)	過年度の1事例を厳選して、出題者の意図や解答の方向性をグループディスカッションしていた。	勉強会 1回 1事例	2.5時間
	模試	予備校模試(会場)	4事例×1回 上位15~20%ぐらいだったように思います。	6時間
効果/反省	効果：復習もある程度進んでおり、最終調整に入ることのできる状態になってきていたと思う。 反省：自分の中では予備校(通学)を受講していたこともあり、予備校の模試で1年前の相対順位からのアップしているかの効果測定をしたかった。少し本試験からズレた勉強をしていると自覚しながらの学習だった。			

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：リベンジマッチに向けてベストコンディションに持っていく			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	これまで勉強してきた内容の復習がメインだった。自分のベスト答案やふぞろいを使って、過去問や予備校の演習で作った解答が、多面的な分析になっているかの確認作業をしていた。中小企業白書や試験委員の書籍を読んで本試験の問題のシミュレーションを行っていた。	12事例 平成16年度~25年度の中からまんべんなく	平日：1.5~2時間 休日：4.5~6時間
	学習(予備校/通信)	特になし		
	学習(その他)	会社の出張と重なり、参加できなかった。		
	模試	特になし		
効果/反省	効果：1年間、自分の積み重ねてきたことは徹底的に叩き込めたように思う。 反省：反省は不要と考えていた。			

#### 学習以外の生活

会社の出張でハーフマラソン大会に出ることが決まっていたので、会社終わりに自習室で勉強して帰宅後、ほぼ毎日ランニングしていた。今となっては、体を動かすことでストレスを発散できていたように思うのでよかったのかもしれない。その他にスマホゲームもやっていた。完全な勉強モードというよりは、いつも通りの生活を送っていたように思う。

#### 仕事と勉強の両立

会社の出張が9月に2度あったため、8月の夏休み期間に追い込んでいこうと思って、最初から飛ばした。その時点での事例数を稼ぐことはできたが、それ以降はあまりペースアップできなかった。イベントがあればある程度前もって勉強しておくことは大事だと思うが、やはり少しずつでもいいから毎日勉強していくほうが良いと思う。結局、1週間前ぐらいにようやくやる気が戻った。

# 2年目 受験生⑥

## イチ

1年目は型にはまり過ぎ、かつ試験当日に冷静に解答できず不合格。2年目1月下旬から勉強を再開したが成長の実感が得られず解答プロセスを大幅に変更。メモを取るのをやめ、「考える」「書く」時間を確保した結果、4月頃にコツをつかむ。5月の予備校の模試でTOP10入りをして開眼を確認。その後は模試順位は意識せず、どのような問題が出題されても80分以内に解答し、全科目60点以下をとらない対策を徹底し、本試験に臨みました。

### 1次試験終了！ あと11週間！

課題：設問解釈を間違えないようにする			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	学習(自宅) ①過去問や模試・演習を横断的に見て、似たような設問と模範解答をまとめた。 ②設問文を読み、何が問われて、何を解答すべきかをイメージする訓練を徹底した。 (時間節約のため解答は作らず、多くの設問を高速回転)	—	平日：1～2時間 休日：2～3時間
	学習(予備校/通信) 2次対策講座(通信) カリキュラムに従わず、直前の演習用に事例を残した。	—	—
	学習(その他) 特になし	—	—
	模試 予備校模試(会場) →上位5%から大幅転落…。得点にバラツキがあると恐ろしい。	予備校模試 上位：40%	受験：6時間×1 フィードバック： 1時間
	効果/反省 基本的な問題について、設問文を読むと、何を解答すべきかを推測できるようになった。 やみくもに事例の答案作成に時間を費やすよりも、ポイントを絞ったおかげで勉強の成果を体感できた。 …といいつつ、模試が散々な結果に終わり、2次試験の恐怖を感じた。		

### 9月突入！ あと7週間！

課題：80分以内に解答する			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
9月 (Week 4-7)	学習(自宅) ①設問解釈を誤った設問を集めて、自分がどのような設問に対して弱いのかを把握。(時間節約のため解答は作らず、多くの設問を高速回転) ②週末に初見の事例を80分以内に解いて勉強の成果を確認。	取組事例数： 4事例	平日：1～2時間 休日：2～3時間
	学習(予備校/通信) 予備校(通信) 敢えて集中しにくいカフェで80分以内に事例を解いた。	取組事例数： 4事例	解答：80分×4 振返：30分×4
	学習(その他) 特になし	—	—
	模試 予備校模試(会場) →事例Ⅱで設問解釈をミスし60点以下の点数をとり焦った。	予備校模試 上位：20%	受験：6時間×1 フィードバック： 1時間
	効果/反省 苦手な問題でも、設問文を読むと何を解答すべきかを推測できるようになった。 また、周囲がうるさくても冷静に解ける訓練は結構良いと思う。(本試験当日、周囲の受験生がガリガリ書く音、消しゴム使用時に揺れる机で集中できず不合格になった…では悲しいですから。)		

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

課題：70分以内に解答する			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
10月 (Week 8-11)	学習(自宅) ①過去問を用いて、80分ではなく70分以内に妥当性のある解答を作成する訓練を繰り返した。(答案作成後は、妥当性があるか、読みやすい答案かという点のみ確認) ②事例Ⅳは間違えたことのある問題を何度も繰り返し解く。 ③試験当日に頭が真っ白になった時に、復活するイメージトレーニング	取組事例数： 8事例	平日：1～2時間 休日：2～3時間
	学習(予備校/通信) 予備校(通信) 敢えて集中しにくいカフェで80分以内に事例を解いた。 (本試験当日、周囲がうるさくても冷静に解ける訓練。)	取組事例数： 4事例	解答：80分×4 振返：30分×4
	学習(その他) 特になし	—	—
	模試 特になし	—	—
	効果/反省 80分で解答できないかもしれないという不安がなくなった。馬鹿げているかもしれないが、「③試験当日に頭が真っ白になった時に、復活するイメージトレーニング」はやっておいてよかった。		

#### 学習以外の生活

2年目の受験ということもあり、家庭との両立を重視して勉強した。  
直前期も、週末は子どもと公園で追いかけてこしたり、家族でショッピングに行っていた。リフレッシュでき緊張がほぐれていたと思う。

#### 仕事と勉強の両立

ダラダラと会社に残って仕事をすることを一切やめた。また、飲み会への参加は最低限に留め、育児等を理由に、可能な限り仕事を終えたら早く帰宅することを心がけた。(付き合いの悪い人になってしまった…でも、そんなの気にしない。気にしない。)

# 多年度 受験生①

## リソフ

合格できた年に変えたことは、①勉強会のリーダーとして主体的に会を引張る役割を引き受けたこと、②自分の改善すべき部分を分析し、その克服を心がけたこと、です。逆に言えば、その前までは「落ちるべくして落ちていた」自分があったわけで、長年なじんだ自分の思考をリハビリできたことが合格のポイントでした。

### 1次試験終了！ あと11週間！

課題：7月まではペースを落としていたので、少しずつ勉強のペースをつかむこと			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	勉強会の日程に合わせて週ごとに取り組む事例を決め、過去問中心に解答作成・討議を繰り返し、ペースを作った。 事例IVは平成13年度まで全て実施するよう、計画を立てて実施していった。	5事例	平日：2時間 休日：8時間
学習(自宅)			
学習(予備校/通信)	特になし		
学習(その他)	勉強会： 【平日】水曜 夜 3時間 その週の事例×1 討議 【土曜】終日 8時間 その週の事例×2 その場で解き、討議 【休日】終日 8時間 4事例を本番時間で解く 等	10事例	平日：11時間/週 休日：8時間/週
模試	予備校模試(会場)	上位40%	32時間
効果/反省	効果：1次試験までに「ベスト答案」を作成しておいたため、1次試験以降はその場で解く時間管理とプロセスの安定、作問者の意図を理解すること、解答の型を決め落とし込むことに集中できた。 反省：時間管理や色付けの仕方等はギリギリまで定まらなかった。		

### 9月突入！ あと7週間！

課題：自分の実力を信じ、無理せず本試験まで着実に勉強を続けること			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
9月 (Week 4-7)	基本的に8月と同じ	6事例	平日：2時間 休日：8時間
学習(自宅)			
学習(予備校/通信)	特になし		
学習(その他)	勉強会：8月と同じ その他： 朝夕の電車の中や空き時間に、問題文と自分のベスト答案をファイリングしたノートを持ち歩き、なるべく通して読むことで、全体に流れる作問の意図を考え、ベスト答案を微修正していった。	20事例	平日：11時間/週 休日：8時間/週
模試	予備校模試(会場)	上位40%	32時間
効果/反省	効果：ペースを固めて、あれこれ手をつけずに、迷いなくできた。事例毎に毎年問われる作問者の意図が理解できてきた。 反省：特になし		

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

課題：本試験に向けて最高のコンディションを作ること			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
10月 (Week 8-11)	基本的に8月と同じ	10事例	平日：2時間 休日：8時間
学習(自宅)			
学習(予備校/通信)	特になし		
学習(その他)	勉強会：8月と同じ その他： 『2次試験合格者の頭にあった全知識』の中に、各1次試験の論点を使って因果の文章を自分で書き込んでいった。一通りの1次試験知識をどのように知識の引き出しから引っ張り出すかの訓練をした。	16事例	平日：11時間/週 休日：8時間/週
模試	特になし		
効果/反省	効果：勉強会の2次試験のリーダーとして、全体の勉強計画を自ら立てて進めていたので、計画を守るモチベーションが維持できた。 反省：特になし		

#### 学習以外の生活

基本は学習中心の生活になったが、ストイックというほどではなかった。

#### 仕事と勉強の両立

2次試験に専念して不合格となった前年は、仕事の面では忙しく、両立が大変であったが、合格した年は全体としては仕事は平常であった。ただし、試験前の1か月くらいから忙しくなり、少し焦った。



# 多年度 受験生②

## みほみほ

受験1・2年目は、勉強以外の生活は捨てていたので、3年目は「プライベートと勉強の両立」を目標に掲げ、本試験前は勉強に集中し、それ以外の時期はゆるく過ごしました。  
1次試験後は8月に中だるみしましたが、9月後半から追い上げ、本試験までペースを保つことができました。

### 1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：1次試験後、中だるみ…。どうやってモチベーションアップを図るか			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	無事1次試験を突破できたので、10月までの学習スケジュールを再検討した。…が、1次試験で燃え尽きてしまい、中だるみしてしまった。	予備校、勉強会以外には2事例程度	平日：2時間 休日：1時間
	学習(予備校/通信)	予備校(1次試験が終わるまでは通信だったが、1次試験後は通学に切り替えた)	4事例	6時間×2日間
	学習(その他)	1月から参加していた、過去問対策を中心とした勉強会を継続。モチベーションの上がない時期だったが、受験仲間や先輩診断士に会うと刺激を受けた。	4事例	3時間×2回
	模試	特になし		
効果/反省	受験仲間や先輩診断士と話すとかやる気が出るが、1人になるとぼんやり…。あまり勉強に集中できなかった。			

### 9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：「過去問対策」「1次知識の活用」「読みやすい解答づくり」を強化する！			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	今年の重点課題「過去問対策」「1次知識の活用」「読みやすい解答づくり」の再強化を始めた。また、1日最低30分は事例IV対策を行った。	9月後半から、1日に最低1事例解く	平日：3時間 休日：2時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)	6事例	6時間×3日間
	学習(その他)	勉強会を継続	4事例	3時間×2回
	模試	予備校模試(会場)、他予備校模試(会場) 8月はぼんやりしていたが、他予備校の模試で凡ミスによる大失敗をし、「これは大変だ!」と、やる気に火がついた。	4事例(×2回)	6時間×2
効果/反省	人は、痛い目にあったときが変わるチャンスだと思う。模試で失敗したおかげで、危機感からやる気を取り戻した。			

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：「過去問対策」「1次知識の活用」「読みやすい解答づくり」+頭を本試験モードへ切り替える！			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	・1次知識や試験委員の本を読むなど、知識を強化した。 ・1日30分の事例IV対策は継続した。 ・試験直前は勉強量を抑え、疲れすぎないように気を付けた。	1日最低1事例を継続	平日：3.5時間 休日：3時間
	学習(予備校/通信)	予備校(通学)	2事例	6時間
	学習(その他)	勉強会を継続。頭を本試験モードにするため、過去問対策を中心に行う勉強会にかなり重点を置いて勉強していた。	6事例	8時間×2回
	模試	他予備校の模試(自宅受験) 直前期に勉強仲間と一緒にセルフ模試をやった。	4事例	6時間
効果/反省	重点課題「過去問対策」「1次知識の活用」「読みやすい解答づくり」を、完璧に仕上げられなかったのが心残り。ただ、時間が限られていたおかげで、本試験までテンションを切らさず勉強できた。			

#### 学習以外の生活

9月に少しだけ旅行に行ったり、友達に会ったり、家族と過ごしたり、学習1～2年目より余裕のある生活を送っていた。

#### 仕事と勉強の両立

学習1年目は、誰にも話さず隠れ受験をし、2年目は上司と親しい友人にだけ話して受験。合格年となった3年目は「資格試験の勉強をしています」と周囲にオープンに話していた。上司も同僚も理解があり、試験直前にお休みを頂いたり、恵まれていたと思う。どうもありがとうございました。

# 多年度 受験生③

## ガクン

『日経新聞』の春秋や『中小企業白書』の事例の要約をすることで、国語力を高める地固めをしながら、予備校の演習を活用して解答手順のブラッシュアップと暗黙知化を図りました。

1次試験終了！ あと11週間！

項目	内容(定性)		内容(定量)	時間
	学習(自宅)	・日経新聞の春秋要約 7月は1次試験対策で書くトレーニングを疎かにしていたので、基礎に戻り春秋要約で読む・書くの感覚を取り戻した。		事例Ⅳ 2事例
学習(予備校/通信)	予備校での演習は80分の感覚を取り戻すことと、自分の解答手順を確実なものにするために、点数にはこだわらず取り組んだ。		予備校(通学) 2事例 予備校(通学) 4事例	休日：8時間
学習(その他)	【勉強会】過去問の研究 予備校各社の模範解答とふぞろいの解答を題材に、出題趣旨と照らし合わせながらディスカッションを行い、過去問への理解を高めた。		週1回 2時間程度	週1回 2時間
模試	未受験			
効果/反省	1次試験対策のため1か月強の期間、事例を解くことから遠ざかっていたので、惰性ではなく新鮮に事例を解くことができた。その反面、自分の解答手順を思い出すのに少し時間がかかってしまった。			

9月突入！ あと7週間！

項目	内容(定性)		内容(定量)	時間
	学習(自宅)	【事例Ⅳ対策】 ・予備校の事例Ⅳ用の問題集を1回転させた。 ・『意思決定会計講義ノート』の問題は解かずに論点の説明の部分だけを読んだ。		
学習(予備校/通信)	9月に入るとある程度自分の解答手順を取り戻してきた。		予備校(通学) 2事例 予備校(通学) 6事例	休日：8時間
学習(その他)	【勉強会】過去問の研究 予備校各社の模範解答とふぞろいの解答を、出題趣旨と照らし合わせながらディスカッションを行い、過去問への理解を高めた。		週1回 2時間程度	週1回 2時間
模試	予備校模試 4事例 春の模試で成績が良かったので、今回も、と少し欲を出すのが、事例Ⅳで得点を稼ぐことができなかった。		予備校模試 4事例 上位20%程度	復習も含め12時間
効果/反省	事例Ⅳの精度がまだまだ低いことを認識した。時間のプレッシャーがかかるときや、今までと異なる問われ方をしたときに、正しく解けないことがあるため、その点を強化する必要があると感じた。			

いよいよ最終決戦！ あと4週間！

項目	内容(定性)		内容(定量)	時間
	学習(自宅)	【事例Ⅳ対策】 ・予備校の事例Ⅳ用の問題集を1回転させた。 ・『意思決定会計講義ノート』の問題は解かずに論点の説明の部分だけを読んだ。		事例Ⅳ×3事例
学習(予備校/通信)	・予備校の講座の中で通学受講できていなかった5事例をDVDで受講した。		予備校 DVD受講 5事例	休日：8時間
学習(その他)	・技術士(経営工学分野)の1次試験を受験した。 試験前の数日を技術士の試験対策にあてることで、診断士の2次試験の本番をピークに持っていくための谷にした。		勉強会 週1回 2時間程度	週1回 2時間
模試	予備校の直前オプション講座に参加 1日に2事例を解き、その日のうちに解答解説を聞くとともに、グループでディスカッションを行い、当日に採点結果を受け取った。		予備校直前オプション講座 4事例 上位20%程度	計22時間
効果/反省	2次試験の2週間前に技術士の1次試験や英検の1次試験を受験したため、その直前はあまり勉強はできなかった。それにより、残り2週間を集中力を切らすことなく勉強ができたと思う。			

### 学習以外の生活

- ・英語の勉強のために学校に通っていたため、期末テストや英検やTOEICなどの受験直前は英語の勉強に注力した。
- ・脳を健全に機能させるためには健康な身体が必要と思い、週1~2回程度ジムに通った。

### 仕事と勉強の両立

仕事は3月で辞めていたので、英語の勉強と診断士の勉強を両立するため、今まで仕事にあてていた時間は英語の勉強の時間、それ以外の時間は診断士の勉強と自分のルールを決めて勉強した。

# 多年度 受験生④

## すぎっち

事前の準備と本番での柔軟な対応力で合否が決まります！  
事前の準備でできる限りのリスクをつぶせるか、がまず重要です。キラーフレーズの準備や解法プロセスの  
確定で、安定感を高めましょう。  
併せて、本番でのパニック対策を行うことで、本番での柔軟な対応ができ、はまらず合格にたどり着けます。

### 1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：それまで1次試験に専念していたので、80分の解答プロセスの復活とキラーフレーズの再セット			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	1次試験に専念していたため、解けていなかった予備校の演習を解き、80分の解答プロセスの復活とキラーフレーズの再セットを行った。今までの復習も同時に行った。	12事例	平日：1～2時間 休日：6～7時間
	学習(予備校/通信)	予備校のカリキュラムに沿って、同じ事例を3つ解く(事例1を3事例分)ことで、各事例の特徴をつかみ、対策を行った。	6事例	上記の時間帯に含まれる
	学習(その他)	学習仲間と勉強会を開催。学習(自宅)や予備校の演習の添削済み答案にお互いコメントを入れて持ち寄り、読みやすさ、切り口、キラーフレーズの観点でチェックを行い、改善点をノートにためていった。	勉強会 18事例	2時間
	模試	通学していた予備校の模試×1	4事例	7～8時間
効果/反省	1次試験後の次の週末にある模試までに感覚を戻すべく、最初の1週間で一気にベースアップして事例を解き、各事例の特徴とキラーフレーズおよび解法プロセスを取り戻せたことで、その後が安定した。			

### 9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：本番時のパニック対策			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	失敗回避ノートに観点を書き込みつつ、つねに読み返すことで解法プロセスの安定化とキラーフレーズの精度向上を図った。事例IVは過去の演習の解きなおし。	事例は解いていない	平日：1～2時間 休日：6～7時間
	学習(予備校/通信)	予備校のカリキュラムに沿って、同じ事例を3つ解く(事例Iを3事例分)ことで、各事例の特徴をつかみ、対策を行った。	6事例	上記の時間帯に含まれる
	学習(その他)	学習仲間と勉強会を開催。過去問や予備校の演習の添削済み答案にお互いコメントを入れて持ち寄り、読みやすさ、切り口、キラーフレーズの観点でチェックを行い、改善点をノートにためていった。	勉強会 14事例	2時間
	模試	通学していた予備校の模試×1 他の予備校の模試×4	16事例	7～8時間
効果/反省	毎年、本番でサプライズ問題が出ており、その対応力の弱さを認識していたので、本番時のパニック対策として、通学校以外の予備校の模試をすべて解き、本番時のパニック対策を徹底して行った。なにがでてまあなんとかなるさと思えた。			

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：本番時のパニック対策			
	項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
	学習(自宅)	直近5年分の過去問を読み込み、切り口やキラーフレーズ出しの練習を行った。事例4は過去の演習と過去問の解きなおし。	事例は解いていない	平日：1～2時間 休日：6～7時間
	学習(予備校/通信)	予備校の直前スパーリング対策に参加し、本試験と同じ時間で4事例を解くことを2回行った。ここではほぼ本試験のシミュレーションは完了した。	8事例	上記の時間帯に含まれる
	学習(その他)	学習仲間と勉強会を開催。過去問や予備校の演習の添削済み答案にお互いコメントを入れて持ち寄り、読みやすさ、切り口、キラーフレーズの観点でチェックを行い、改善点をノートにためていった。	8事例	2時間
	模試	特になし	—	—
効果/反省	過去問を中心にするすることで、予備校病を回避し、本試験モードに。併せて常に本番時のパニック対策の発動条件も確認することで、リスク回避ができた。			

#### 学習以外の生活

仕事が息抜きになっていた(笑)。  
また、好きなスイーツやラーメンは我慢せずに食べていた。  
メリハリをつけるのがオススメです！

#### 仕事と勉強の両立

仕事は忙しかったが、基本仕事も好きなので、CMやイベント企画をバリバリこなしていた。仕事が息抜きになっていたし(笑)。ただ、勉強時間は確保しなければならないので、朝2時間、昼休み、を活用して勉強していた。両立は大前提だと思う。

# 多年度 受験生⑤

## ポンポロ

2次試験を4度受験し、ようやく合格しました。  
 多年度で合格にあと一歩及ばない方は、実力云々よりも「1次試験終了後～2次試験までの11週間で何を絶対外さず、何を捨てるか」の分別が不十分だったからだと思います。全てを本試験に持って行くことはできません。この11週間で「究極の取捨選択」を行うことが良いと思います。

### 1次試験終了！ あと11週間！

課題：1か月強、1次試験に集中しすぎてそもそも読み書きがなまっている!!			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)	改めて、事例Ⅰ～Ⅲを毎日1事例ずつ必ず解いた。自宅では子供もいてなかなか集中できないため、会社帰りにカフェに寄るなどして20～23時で1事例解き、出来不出来の確認を行った。	20事例程度	平日：3～4時間 休日：6～8時間
学習(予備校/通信)	予備校(通信)から出された課題をあるジャンルの事例に集中して課題を解いた(例えば、各事例が3題ずつ来ていたら、ある事例に特化して3題解くようなイメージ)。	12事例程度	上記の時間帯に含まれる
学習(その他)	勉強会へ参加。自宅で行った事例の解答を持ち寄って受験メンバーと突き合わせる。何が共通しているフレーズか、もし自分で書いていなかったものがあればなぜそれが出てきたのか、それは納得いくものなのかどうかをチェックした。	勉強会へ参加 20事例弱	隔週土日 8時間程度
模試	予備校(通信)×1 他予備校の模試×1	8事例	1日7～8時間
効果/反省	とにかく、1次試験でなまってしまった「読み・書き」について慣れを呼び戻すのに数をこなそうとした。それはそれで役に立ったと思う(大量に実施したおかげで、1週間くらいで癖は戻った)。しかし、「2次試験に持っていく重要なものは何か」を考えるまでには至らなかった。		

### 9月突入！ あと7週間！

課題：文脈は固まったので、フレーズの取捨選択を留意すること			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)	引き続き、平成25年度からさかのぼって過去事例を解いていくことに注力(9月スタートは平成21年度あたりだった)。ここからはただ解いていくだけでなく、合格者に多く使われていたフレーズは何だったのかを歴史「ふぞろい」を見ながら確認した。	20事例程度	平日：3～4時間 休日：6～8時間
学習(予備校/通信)	予備校のレギュラーコース終了につき、直前対策講座を受講。全12事例が課題となったが、ただやみくもに解くのではなく、過去事例でわかってきたことをどれくらい使えるかという力試的に使ったので、わりとゆっくりとこなしていった(初見の問題もだんだん少なくなってきたので…)。	8事例程度	上記の時間帯に含まれる
学習(その他)	勉強会へ参加。自宅で行った事例の解答を持ち寄って受験メンバーと突き合わせる。8月に行ってきたことは勿論やったが、それ以外にも今年初めて2次試験を受験する勉強会メンバーへのサポート(自分は理解しているが、その初学者が理解していないことをわかりやすく説明する)に注力した。もしきちんと説明できなかつたら自分は十分に理解していないということがわかる。	勉強会へ参加 20事例弱	週1回、日曜 8時間程度
模試	予備校(通信)の模試×1 他受験校の模試×2	12事例	1日7～8時間
効果/反省	勉強会で初学者に教える、という一見「そんな事やってる場合か!」というツッコミがきそうなことに注力したことが、結果的に自分が本質的にわかっていること、わかっていることを認識するのに役に立ったと思う(事実、わかっているふりになっているものが実が多かった…)。		

### いよいよ最終決戦！ あと4週間！

課題：どんな状態でもこれまで通りに事例を解く精神力を維持すること			
項目	内容(定性)	内容(定量)	時間
学習(自宅)	9月終了時点で平成15年度までさかのぼり事例解答が終わっていたが、これ以上はやってもあまり意味がないと思ったため、これまで解いてきた事例解答を見直し、改善すべきはどこのかをレビューすることに注力。	新しい事例はやっていない	平日：3～4時間 休日：6～8時間
学習(予備校/通信)	直前対策の残り4事例分に対処するとともに、事前に受験校から返却されてきた答案を見直し再答案を作成(ここでもどちらかというところ、新しい問題に手を伸ばすというより再答案に注力)。	新しい事例はやっていない	上記の時間帯に含まれる
学習(その他)	受験校による直前オプション講座(2週連続)	8事例	1日7～8時間
模試	特になし	—	—
効果/反省	見直しに注力し、「ここだけは絶対に忘れない、出てきたら必ず書いて得点にしてみせろ!」ということに注力したことが、うまくハマったのではないかと考えている。		

#### 学習以外の生活

毎年そうなのだが、好きなものについてはあまり我慢しなかった。特に趣味である夏のよさこい祭りにフル参加したし(毎週朝練、月1回程度祭りへ参加)、ホントに受験生かという生活をしてきた。思いつめず、リラックスして臨むことは案外悪いことではないのかもしれない。

#### 仕事と勉強の両立

新しい部署(経理部)に異動し、初めての2次試験だった。ましてや10月は中間決算があり、繁忙期後に試験を迎えるということで本当に大丈夫か!?と思ったが、ちょうど決算業務の波が収まってからのタイミングのいい受験であったこと、そしてなによりも過去3回毎回付き添っていた「前日仕事」が今回はなかったことが素晴らしい効果的だった。仕事が忙しい、ということは実は受験にはあまり影響がなく、影響するのは「直前3日前あたりにどれくらいコントロールできるか」ではないかと思う。

マッキー

1次試験が終わってからの本場の勝負です。  
がんばってください！

1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：1ヶ月強、1次試験に集中しすぎてそもそも読み書きがなまっている!!		
	項目	内容(定性)	内容(定量)
学習(自宅)	過去問を中心に解くようにした。いままで時間を意識してなかったが、80分を意識して解いていた。	1日1事例をマストに	平日：2時間 休日：6時間程度
学習(予備校/通信)	予備校には行っておらず。	上記の時間帯に含まれる	上記の時間帯に含まれる
学習(その他)	勉強会へ参加した。各自が解いてきた解答をもとに議論。自分とは違う視点の人がなぜその解答を書いたのかを確認して、良いものは取り返もとしていた。	勉強会へ参加 20事例弱	隔週土日 8時間程度
模試	特になし	4事例	1日7~8時間
効果/反省	ここまで1次試験に集中していたためまずは感覚を取り戻すのに努めた。1日1事例をマストにして解き始めた。80分を意識して何分間何をするかを定型化しようとした。		

9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：文脈は固まったので、フレーズの拾取選択を留意すること		
	項目	内容(定性)	内容(定量)
学習(自宅)	引き続き過去問を解いていた。平成14年ぐらいまではさかのぼってやった。	1日1事例~2事例	平日：3時間 休日：8時間
学習(予備校/通信)	予備校には行っておらず。	上記の時間帯に含まれる	上記の時間帯に含まれる
学習(その他)	勉強会で引き続き過去問の答練を実施。	勉強会へ参加 20事例弱	週1回、日曜 8時間程度
模試	1回	4事例	1日7~8時間
効果/反省	この時期になると他人の解答を見て「これは〇、これは×」など感覚的にわかるようになってきた。素晴らしい解答を書くというよりはみんなが書きそうな解答を書くように意識し始めた。		

いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：どんな状態でもこれまで通りに事例を解く精神力を維持すること		
	項目	内容(定性)	内容(定量)
学習(自宅)	過去問も尽きてきたので、模試の復習や「企業診断」などの事例をやった。	1日1事例~2事例	平日：3時間 休日：8時間
学習(予備校/通信)	予備校には行っておらず。	上記の時間帯に含まれる	上記の時間帯に含まれる
学習(その他)	勉強会で引き続き過去問の答練を実施。休日には財務6事例やセルフ模試などを集まって企画し、解き終わった後に議論していた。	8事例	1日7~8時間
模試	1回ぐらい	8事例	1日7~8時間
効果/反省	この時期には80分の使い方がだいぶ身につけてきた気がした。模試や過去問の事例数もほかの人に負けていないように思えるようになった。		

学習以外の生活

試験日1週間前に長女が生まれる予定だったので、早め早めの用意を心掛けていた。その甲斐もあって試験1週間前にはやりきった感があつた。早めの準備が大事だと痛感した。

仕事と勉強の両立

仕事先には一部の人以上に言っていなかった。昼休み等は近くの図書館で隠れて勉強しました。月末月初は月次締めのため業務が優先になるが、それでも1日1事例だけはこなそうと決めていた。夜は予定もあるので早朝に会社に行き、近くの喫茶店で7時ぐらいから事例を解いた。

ガネパンマン

2次試験4回目でやっと合格できましたが、そのときに実感したのは、さまざまなスキル・ノウハウ、知識を得たうえで、最後に大事なものは、「基本」です。与件文と設問文をキーワードで対応付け、1次知識を活用し、期待効果を明確にして、解答文の因果をきっちり示す。初學者の頃から受験校などで言われていたことが、自分でも気付かぬうちに腹落ちしていたのだと思います。きっかけは「型」を大切にしてください。

1次試験終了！ あと11週間！

8月 1次試験 終了後 (Week 1-3)	課題：基礎力の確認と強化		
	項目	内容(定性)	内容(定量)
学習(自宅)	過去問の写経(事例Ⅰ~Ⅲを中心に)	事例Ⅰ~Ⅲ過去3年分	1事例2時間×3事例×3年分=18時間
学習(予備校/通信)	予備校(通学)	2事例/週	2.5時間×2日×4週
学習(その他)	1次知識の整理 ふぞろい、タキプロ、一発合格道場セミナー参加	「全知識」通読	10時間
模試	特になし		
効果/反省	各団体のセミナーに参加して、モチベーションを高め、写経や1次知識の確認を中心に、足腰の強化を図った。		

9月突入！ あと7週間！

9月 (Week 4-7)	課題：記述力の強化		
	項目	内容(定性)	内容(定量)
学習(自宅)	過去問解答の写経(事例Ⅰ~Ⅲを中心に)	事例Ⅰ~Ⅲ過去3年分	1事例2時間×3事例×3年分=18時間
学習(予備校/通信)	予備校(通学)	2事例/週	2.5時間×2日×4週
学習(その他)	1次知識ファイナルペーパー作成と確認 過去問演習	キーワード整理 勉強会参加	0.5時間/日×21日 3時間×4日=12時間
模試	予備校模試(会場)	4事例	80分×4事例
効果/反省	過去問解答例(予備校、ふぞろい)の写経で、因果や基本的なフォーマットの再確認を行った。		

いよいよ最終決戦！ あと4週間！

10月 (Week 8-11)	課題：計算力と1次知識の確認		
	項目	内容(定性)	内容(定量)
学習(自宅)	過去問の写経通読(事例Ⅰ~Ⅲを中心に) 事例Ⅳ過去問重点項目(CVP、経営分析、デジジョントツリー等)	事例Ⅰ~Ⅲ過去3年分 事例Ⅳ過去5年分	1事例1.5時間×3事例×3年分=13.5時間 2時間×5年分=10時間
学習(予備校/通信)	予備校(通学)	1事例/週	2.5時間×1日×4週
学習(その他)	1次知識の整理 過去問演習	「全知識」通読 勉強会参加	10時間 3時間×3日=9時間
模試	特になし		
効果/反省	事例Ⅳに時間を割いて、計算の勘を鈍らせないように心掛けた。多少時間切れの感あり。もうちょっと前から事例Ⅳになじむ時間を増やしておけば良かったかもしれない。		

学習以外の生活

とにかく、体調の維持を心がけた。睡眠不足にならぬよう、週末での睡眠調整がカギだった。

仕事と勉強の両立

2次試験前々日の金曜日は午後半休を取って、心身ともに調整することができた。